慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	奥付
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1966
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.59, No.6 (1966. 6)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19660601-0127

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

カリキュラム改定を目前にひかえた現在、学生側もこれに積極的な関心を示し、かなり具体的な要望案を提出している。理財学会・カリキュラム委員会のまとめた「大学革新運動への展望」と題するパンフレットがそれである。彼等がカリキュラム改訂を大学革新運動の一環として位置づけた論理にはやや観念的で公式的な点もみられるが、しかし、このなかで彼等は一つの興味ある試みをおこなっている。それは、現在の経済学部の教養・専門のほとんど全員の教師の講義に対して学生が満足しているか不満があるか（それぞれに十項目の理由事項がある）についておこなったアンケート調査結果の発表である。

このアンケート項目には難点もある。たとえば「不満」の項に「マスプロ授業である」からとあるが、これは決して教師の責任ではないし、「満足」の項に「評価があまい」からとあるが、これはナンセンスな項目である。ともあれ、このアンケート調査に現われた結果はおおむね正しいと思われる。研究と教育に情熱をもやしている教師にはやはり「満足」が集中しているが、講義がマンネリ化し、休講が多く、容易な試験・採点をする教師には「不満」が集中している。

教師はかかる試みから学生におもねて阿生曲学した講義をする必要はさらさらないが、襟を正して反省しなければならない点もある。カリキュラム改訂は教育内容の充実とその水準の向上を目的とするものであるが、かかる教師の反省と新たな心構えがあってこそその最終目標に近づくことができるのではないだろうか。

（植草　益）

昭和四十一年六月一日発行

© 三田学会雑誌　第五十九巻 第六号

定価　二〇〇円（送料一二円）

編集兼発行人　東京都港区芝三田二丁目二番地　慶應義塾経済学会　代表者　遊部久蔵　電話三田（453）二一一一　振替口座番号　東京四四〇五六

印刷者　東京都港区芝三田豊岡町八番地　図書印刷株式会社　木山康夫

半カ年予約購読料（送料共）　一二〇〇円
一カ年　〃　〃　二四〇〇円
御希望の方は左記へ購読料を添え御申込み下さい。

発売所　東京都高輪局区内三田綱町一番地　慶應通信　振替口座番号　東京一五五四九七